

一の真の立場——召会の立場

聖書：エペソ4:3. ヨハネ17:6, 11, 14-24. 16:13.

ゼカリヤ4:2-6. 啓1:11-12

- I. わたしたちが召会の立場を指すときに用いる「立場」という言葉は、建物の土台のような、土台の意味を含みません。それは敷地という意味を持っており、建物の土台が据えられる敷地のようなものです：
- II. 新約の神聖な啓示によれば、召会の立場は一の真の立場として、三つの極めて重要な要素から成っています：
- A. 召会の立場を構成する第一の要素は、キリストの宇宙的なからだの唯一の一であり、それは「その霊の一」と呼ばれています——エペソ4:3：
1. これは、主がヨハネ第17章で祈られた一です。それは手順を経た三一の神とキリストにあるすべての信者とのミングリングの一です。
  2. この一は、御父の御名の中にあり、御父の御名は御父のパーソンを意味し、その中に御父の命があります——6, 11節：
    - a. 御父の御名の中で守られるとは、彼の命の中で守られることです。なぜなら、御父から生まれ、御父の命を持つ者だけが、御父の御名にあずかることができるからです。
    - b. 一のこの面において、御父の命から生まれた信者たちは、御父の御名を享受します。すなわち、御父ご自身を彼らの一の要因として享受します。
  3. この一が三一の神の中にあるのは、聖別を通して、真理としての彼の聖なる言葉によってです：
    - a. 聖別される(エペソ5:26. I テサロニケ5:23)とは、この世とその占有から神と神の定められた御旨へと、地位上だけでなく(マタイ23:17, 19)、性質上でも(ローマ6:19, 22)分離されることです。
    - b. 神の生ける言葉は、信者たちの内側で働いて、彼らをこの世のすべてのものから、またこの世の分裂の邪悪から分離させます(ヨハネ17:15)。
  4. この一は、究極的には神聖な栄光の中にあり、三一の神を表現します——22-24節：
    - a. 御子は御父の栄光を、彼の信者たちに与えました。それは彼らが、御父の命と神聖な性質を伴う子たる身分を持って(2節. II ペテロ

1:4)、御子の中で、御子の豊満の中で、御父を表現するためです。

b. 一のこの面において、信者たちは彼らの自己を完全に否み、御父の栄光を彼らの完成された一として享受し、こうして、団体的な建造された方法で神を表現します。

5. そのような一は、キリストにあるすべての信者の霊の中へと、彼らが命の霊によって、神聖な命としてのキリストをもって再生されたときに分け与えられました。この一は、召会の立場の基本的な要素となりました。

B. 召会の立場の第二の要素は、地方召会が設立され存在する地方の唯一の立場です：

1. 新約が提示しているのは、宇宙召会(キリストの宇宙的なからだ)の表現であるすべての地方召会が、それぞれの都市に位置するという明確な絵です。

2. このゆえに、わたしたちはエルサレムに在る召会(使徒8:1)、アンテオケに在る召会(13:1)、ケンクレアに在る召会(ローマ16:1)、コリントに在る召会(I コリント1:2)、アジアの七つのそれぞれの都市に在る七つの召会(啓1:4, 11)を見ます。

3. 召会が存在する境界としての各都市は、その召会の地方の立場です。そのような地方の唯一の立場は、分裂的な宗派が分かれているように、多くの異なる事柄によって、異なる立場として分かれることから召会を守ります。分裂的な宗派とは、例えばバプテスト派、長老派、ルーテル派、メソジスト派、聖公会などです。

4. 啓示録が七つの召会に送られたことは、それが七つの都市に送られたことと等しいです——11節：

a. これは明らかに、初期の召会生活の実行が、一つの都市に一つの召会、一つの都市にただ一つの召会があるという実行であったことを示します。どの都市にも一つ以上の召会はありませんでした。これが地方召会であって、通りや地域ではなく都市を単位としています。

b. 地方召会の行政区域は、その召会の所在する都市全体に及ぶべきであり、その都市の境界より大きくも小さくもあるべきではありません。その境界の内側にいるすべての信者は、その一つの都市の内側で唯一無二の地方召会を構成すべきです。

C. 召会の立場の第三の要素は、一の霊の実際であり、それはキリストの宇宙的なからだの唯一の一を、地方召会の地方という唯一の立場の上で表現します：

1. 召会の立場の第三の要素は、その霊の実際であり、その霊は神聖な三一の生ける実際です。この霊によって、キリストのからだの一は真のもの、また生けるものとなります：
    - a. 出エジプト記における幕屋の中の燭台(単数)はキリストを予表し(25:31-37)、ゼカリヤ書における燭台(単数)はその霊を表徴し(4:2-6)、啓示録における燭台(複数)は諸召会を表徴します(1:11-12)。
    - b. こういうわけで、金の燭台としてのあらゆる地方召会は、キリストの複製であり、その霊の複写であると言ってもよいでしょう。
    - c. わたしたちが、自分たちは金の燭台としての召会であると言うとき、完全にその霊の中にいなければならないことを認識しなければなりません。
    - d. 召会はその霊の複写であるので、わたしたちはこのように言うことができます、「その霊がなければ、召会はありません。その霊があればあるほど、ますます召会があります」。
  2. この霊を通して、地方の立場が律法的にはなく、命の中で適用されます。さらに、この霊によって、召会の真の立場は三一の神と結合されるのです——エペソ4:3-6。
- III. 以上に説明された召会の立場は、実行上、地方的にも宇宙的にも召会の真の一を保ち(エペソ4:3)、何の分裂もないようにします。これは、キリストの肢体の間の分裂と混乱という今日の状況を避ける唯一の道です。
- IV. 以上に説明された召会の立場は、すべての信者の真の、正当な交わりの基礎でもあり、神聖な啓示における「使徒たちの交わり」(使徒2:42)、三一の神との、またキリストのからだのすべての肢体との交わり(1ヨハネ1:1-3)と呼ばれています。これは、地方的また宇宙的な、キリストのからだの唯一の交わりです：
  - A. 今日のキリスト教にある多くの分裂的な立場のゆえに、キリストの肢体の間の交わりもまた、多くの分裂的な交わりへと分かれています。これらすべての分裂的な交わりから救われる道は、召会の唯一の、真の、正当な立場を取り、保つことです。
  - B. これは教理や決まりの事柄ではなく、霊的事実、実行上の必要です。